

## 1 趣旨

国立青少年教育機構が提供する法人ボランティア養成カリキュラムに基づいて実施し、青少年教育施設で活動できるボランティアを育成する。

## 2 期日

令和5年6月25日（日）

## 3 会場

茨城県水戸生涯学習センター（茨城県水戸市三の丸1-5-38）

## 4 参加者

19人（高校生13名、大学生3名、大人3名）

## 5 主な活動内容

### （1）青少年教育について（講義）

青少年教育の発達段階に応じた体験活動の効果や意義について講義を行った。参加者からは「それぞれの年代（幼児・小学低／高学年生・中学生）への接し方を知ることができた。」「教育事業は参加者が主役だという認識を忘れないことが大切だと感じた。」などの感想が寄せられた。

### （2）ボランティア活動の意義（講義）

ボランティア活動について、磐梯青少年交流の家での教育事業内でどのように捉えているかを例にして講義を行った。参加者からは「ボランティアは参加者にとって身近な存在であることがわかった。」「ボランティアのとしての繋がりが大切だと改めて感じた。」等の感想が寄せられた。

### （3）ボランティア活動の技術（演習）

演習ではテント設営を室内で行った。参加者同士で声を掛け合いながらポールを伸ばしたり、フライシートを掛けたりしてドーム型テントを設営することができた。参加者からは「(参加者へ) 指示をすることの大切さを実感した。」「どのポイントで気を付けるのか、考えながらテント設営ができた。」などの感想が寄せられた。また、本の読み聞かせの実習では読み聞かせの対象をどこに絞るか、本の持ち方やめくり方等について講義を聞き、グループになって参加者同士で読み聞かせを行った。参加者からは「自分が思っていたよりも早口になってしまった。難しい。」「ページをめくる際の手の動かし方や本の支え方は勉強になった。」等の感想が寄せられた。



## 6 事業の成果と課題

### （1）成果

- 写真や映像を使った講義だけでなく、実際の職員からの体験談や活動を通して子供たちの変容を聞くことで、参加者はボランティアに対する心構えや子供との接し方を学ぶことができた。
- アイスブレイクやテント設営、読み聞かせでは、説明だけでなく実際の体験を入れることで、参加者は事業の際のテント設営や絵本の読み聞かせの有効な方法を知ることができた。

### （2）課題

- 読み聞かせの際に、著しく分量が多かったり、少なかったりして参加者の読む時間にばらつきがあり、他のグループと活動時間に差が出てしまった。参加者への事前連絡で5分程度の分量の絵本の持参等の呼びかけをするなど、参加者への情報提供を丁寧に進めたい。